

総合的な探究の時間

1 総合的な探究の時間の改善・充実

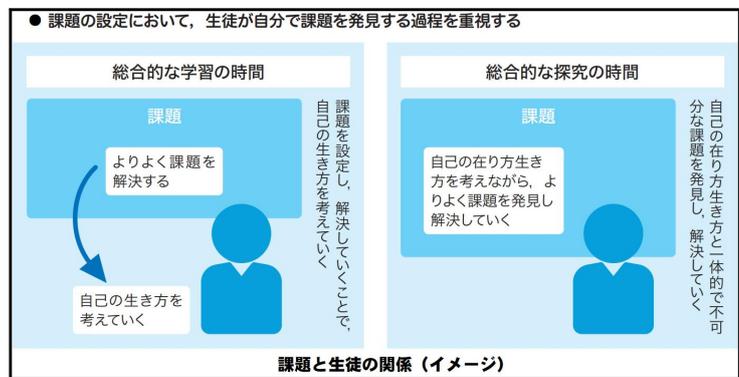
(1) 探究のプロセスにおける「課題の設定」の指導について

ア 総合的な探究の時間における「課題の設定」

- ・総合的な探究の時間では、生徒が自己の在り方生き方と一体的で不可分な課題を自ら発見し、解決していく活動を行うことで、生徒の学びが高度化・自律的になることから、生徒一人一人にとって「課題の設定」が極めて重要になる。

育成を目指す資質・能力	
中学校	高等学校
よりよく課題を解決し、 <u>自分の生き方を考えるための</u> 資質・能力	<u>自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための</u> 資質・能力

- ・総合的な学習の時間（小・中学校）では、児童生徒は教師の指導を受けながら課題を設定し、解決していくことで自らの生き方を考える契機となることが多いが、高校の総合的な探究の時間では、生徒自身が自己の在り方生き方と一体的で不可分な課題を自ら発見し、解決することが求められている。



イ 総合的な探究の時間における「質の高い課題」

- ・探究課題を設定する際には、次の三つの要件を満たすことが求められている。

総合的な探究の時間の「第1の目標」から導かれるの三つの要件
◎探究の見方・考え方を働かせて学習することがふさわしい課題であること
◎その課題をめぐって展開される学習が、横断的・総合的な学習としての性格をもつこと
◎その課題を学ぶことにより、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくことに結び付いていくような資質・能力の育成が見込めること

「第1の目標」は、大きく、次の二つの要素で構成されている。一つは、総合的な探究の時間の特徴を踏まえた学習過程の在り方（総合的な探究の時間に固有の見方・考え方を働かせて、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を育成すること）であり、もう一つが総合的な探究の時間を通して育成することを目指す資質・能力（目標の(1)～(3)）である。

- ・上記の三つの要件を満たし、生徒が設定した課題が洗練され、「質の高い課題」にするには、生徒が課題意識を高められるよう、教師が生徒に意図的な働きかけをして、支援することが重要となる。
- ・質の高い課題にするために、教師が行う支援について、次のように整理することができる。

「質の高い課題」にするための教師が行う支援の例	
Step 1	○生徒が実社会や実生活と自己との関わりから課題を設定できるよう、人や社会、自然に直接関わる体験活動を重視し、学習対象との関わり方や出合わせ方などを工夫した計画を立てる。
Step 2	○生徒の発達や興味・関心を適切に把握する。
Step 3	○生徒が設定した課題について、課題意識を高めたり、生徒自身の在り方生き方との関連を明確にしたりするため、現実の状況と理想の姿を対比し、現実の状況との「ずれ」や「隔たり」が明確にできるよう支援する。※図1
Step 4	○生徒が課題に関することをじっくり考えたり、様々な考えをもつ人々と相談したりするなど、行きつ戻りつしながら「質の高い課題」とできるよう支援する。 ○その際、課題を時間軸で分析したり、空間軸で分析したり、また、自分以外の専門家の方々や地域の大人、友達の考え等と比較するなど、立場軸で分析したりできるよう働きかけることで、切実感のある洗練された「質の高い課題」とすることができる。※図2

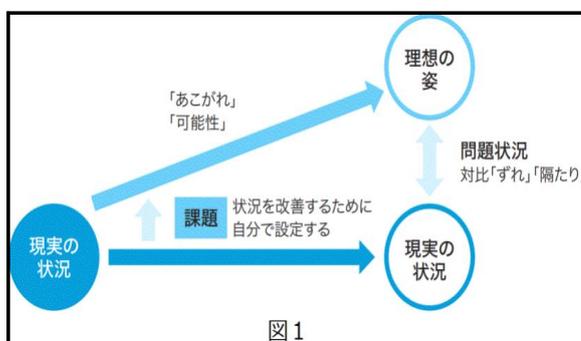


図1

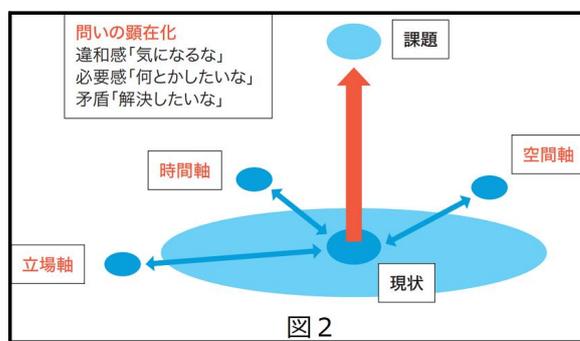


図2

ウ 「課題の設定」における指導の工夫

(ア) 体験活動から「課題の設定」をする事例

「地域の自然のフィールドワーク」や「在住する町及び近隣の町の現地調査」など、自ら課題を発見できるような体験活動を位置付けたり、体験活動後に感じたことを明らかにしたりすることで、「どうしてこのようになっているのか」、「どうして違うのか」などの問題に気づき、課題へと高めていくことが期待できる。

また、教科での学習や特別活動等を通して体験した活動、小・中学校の総合的な学習の時間で体験したことを基に、課題を設定することも考えられる。

このように、課題の設定に生かせるよう、意識的に体験活動を組み込むことは、一つの効果的な方法と考えられる。

【実践例】

- ・マイクロプラスチックの現状を知り、課題を設定する

理科で身に付けた資質・能力を活用することで、探究の過程の高度化を図ることが考えられる。

(イ) 資料を分析して「課題の設定」をする事例

既存の資料を比較・分析することで、課題の設定につなげていくこともできる。例えば、複数の資料を比較することで、生徒から疑問が生まれやすくなり、生徒は資料の違いから、その原因を類推するなどして課題を明らかにしていくことができる。

また、グラフなどの統計資料の量の多寡や推移、構成比などに着目することで、生徒は調査対象の今後を予想したり、問題点を見いだしたりするなどして、統計資料を根拠に問題状況を明らかにし、課題を設定していくことができる。

【実践例】

- ・隣接する2市の人口推移等を比較して、課題を設定する

RESAS等のシステムなどICTを活用して、統計資料を準備することなどが考えられる。

(ウ) 様々な人との出会いから「課題の設定」をする事例

生徒が実際に体験することが難しいテーマについては、地域や社会のために仕事をしている人や大学等の研究者など、それぞれの専門家から話を聞くことで、課題の設定につなげていくことも考えられる。地域や社会のために仕事をしている人との出会いは、「自分もより深く関わりたい」、「その人に近付きたい」という対象へのあこがれを抱かせ、対象のよさや価値、現在の状況等を実感することを通して、課題を設定していくことにつながる。

また、大学生や別の地域で学ぶ高校生など、立場や環境が異なる人との出会いも、課題の設定に大きな効果をもたらすことがある。

このように、様々な人との出会いを課題の設定に生かせるように計画することも、一つの効果的な方法として考えられる。

【実践例】

- ・他の高校とオンライン交流を行い、課題を設定する

異なる環境の高校生と交流することで、身近な事象を多面的・多角的に捉え直し、新たな課題に気付くことが考えられる。

(エ) 「考えるための技法」を活用して「課題の設定」をする事例

各生徒が、上記(ア)～(ウ)を通して得た気づきを「課題の設定」まで深めるためには、探究活動に個人で取り組むかグループで取り組むかに関わらず、その気づきについてディスカッションを行ったり、論点を整理したりするなど、考えるための技法を活用して他者と協働し、気づきを検証することも効果的な方法の一つである。

例えば、付箋（カード）を活用したKJ法を用いて、体験活動などを通して生まれた気づきや疑問を類型化することで、課題を設定したり、これまでの経験や体験を通して明らかになった問題を序列化して整理することで、問題を焦点化し、課題を設定したりすることなどが考えられる。

【「思考ツール」の活用】

「考えるための技法」とは、考える際に必要になる情報の処理方法を、「比較する」、「分類する」などのように具体化し、技法として整理したものである。また、「考えるための技法」の活用を支援する上で、「思考ツール」の活用が効果的である。「思考ツール」とは、「ベン図」や「ロジックツリー」など、思考を可視化することで、「考えるための技法」を意識的に使えるようにするためのものである。これらを各教科・科目等や総合的な探究の時間において組織的・計画的に繰り返し活用し、それぞれの時間で身に付けた資質・能力が汎用的な資質・能力として育成されることが期待されている。

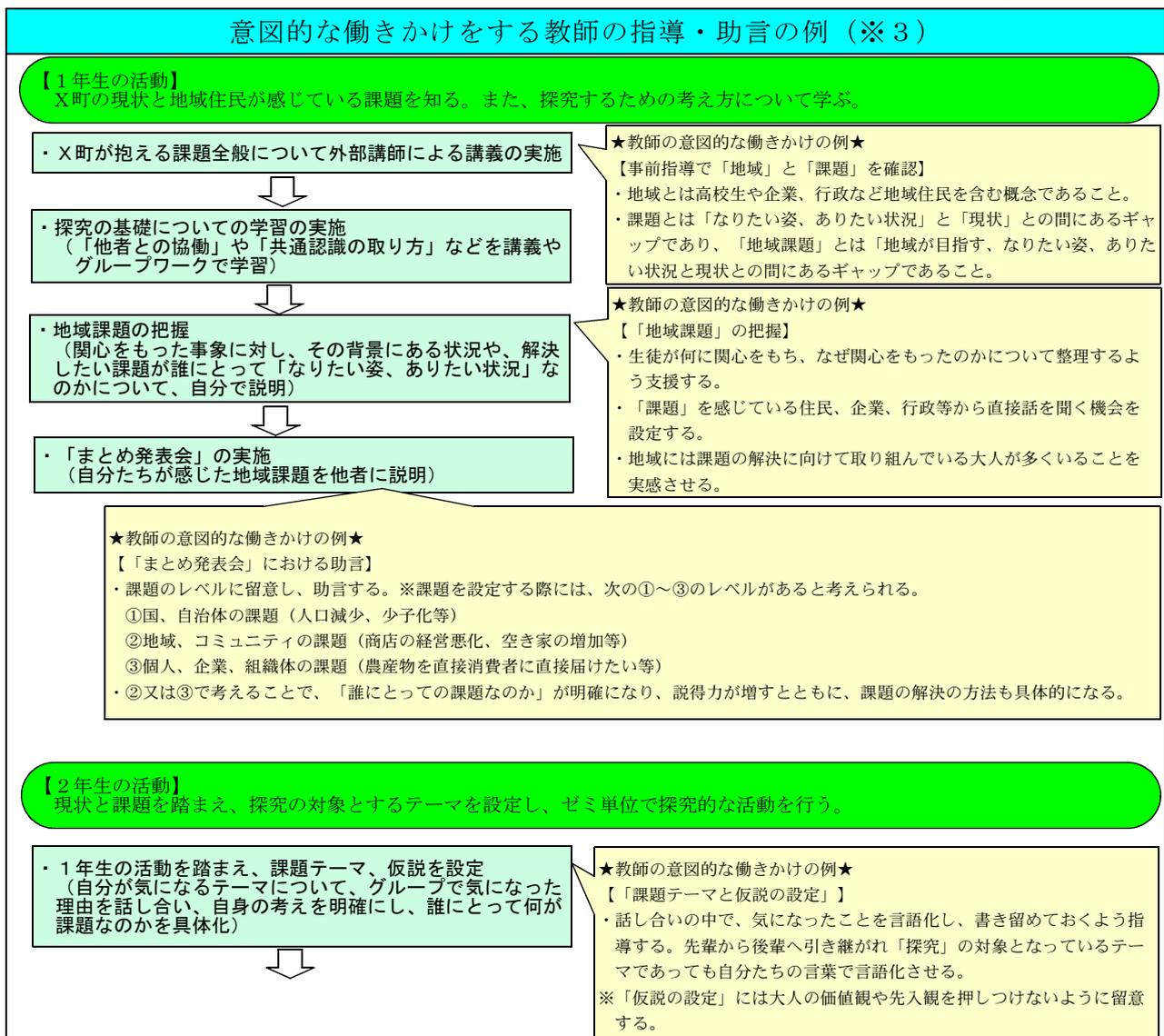
(2) 「課題の設定」の指導を重視した年間計画の作成及び評価について

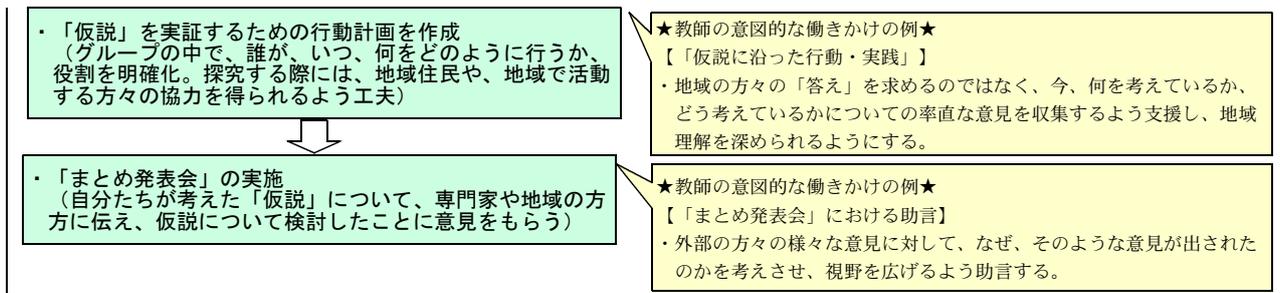
総合的な探究の時間においては、生徒が自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断するなど、生徒の主体性や興味・関心を十分に生かすことが望まれる。しかし、問いや課題は、必ずしも生徒の既存の知識や経験から生まれるとは限らず、実社会や実生活との関わりで問題を発見し、自己との関わりの中で課題に昇華させることが求められる。

問題を発見するポイントの例
◎現在の状況は、過去を出発点とし、時間的な推移の中で問題となったのではないか。
◎他の空間と比較すると、今は見えていない問題が身の回りにはあるのではないか。
◎自分の常識に照らしてみると違和感があるので、見えにくい問題が隠れているのではないか。

教師は、生徒が自ら課題を発見するまで、何もしないでじっと待つのではなく、意図的な働きかけをし、生徒の課題発見を支援をすることが重要である。

次に示す図は、地域の課題解決をテーマにした、ある学校の総合的な探究の時間の2年間の大まかな流れと、それぞれの状況に応じた教師の指導・助言の例である。教師が適切な機会に、適切な指導・助言を行うことにより、生徒は自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断する力を身に付けることができるようになる。





次に示すのは、図（※3）における、第1学年の「総合的な探究の時間」の年間指導計画の一部である。教師は、それぞれの活動の際に生徒の中に生じた問いを、生徒それぞれが自覚化・顕在化できるよう、伴走し、支援することが大切である。

【評価の観点】(どのような力を身に付け、何ができるようになるか)

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	何を理解しているか、何ができるか	理解していること・できることをどのように使うか	どのように社会・世界と関わり、よりよい生活を送るか
育成を目指す資質・能力	●基礎的な知識・技能 ●情報活用能力	●コミュニケーション力 ●課題設定・解決力 ●批判的思考力	●自己理解・成長力 ●他者とチームで活動する力 ●組織に求められる人間性
評価規準 (B)	地域をフィールドにした探究活動に関する基礎的な知識や、必要な技術を理解している。	地域との関わりから問いを見だし、課題を設定し、情報を集め、整理分析し、まとめている。また、説明が客観的なデータに基づき論理的に行われており、質疑応答等では聴衆とコミュニケーションをとって表現している。	地域と関わり、見通しをもったり、振り返ったりしながら主体的・協働的に取り組もうとしている。
具体的な評価方法	①ワークシートやレポートなどの成果物による評価	①ワークシートやレポートなどの成果物による評価 ②発表の内容や質疑応答などのパフォーマンス評価	①学習活動の過程や成果などの記録や作品によるポートフォリオによる評価 ②発表までの過程における課題の質の昇華など、生徒の変容に係るパフォーマンス評価

【学びの方法】(何で(教材)、どのように(授業の方法、学び方)学ぶか)

授業の進め方	(1) 講義等をもとに課題を設定する。 (2) 巡検等を通して情報を収集する。 (3) 個人思考やグループ活動を通じて、収集した情報を整理・分析する。 (4) 気付きや発見、考えなどをまとめ、発表する。
学びの留意点	(1) 講義等はメモを取りながら聞き、情報収集を確実に行う。 (2) 巡検等では、さらに情報収集を行うとともに、自分の目で確認し、体験する。 (3) グループ活動では、情報収集の内容を基に、話し合い、考えを深め、まとめる。 (4) 発表会は聞き手を意識した、分かりやすい発表をする。

月	単元名	学習形態	講師	学習内容(主なねらい)	評価計画		
					知	思	主
4	オリエンテーション	説明	本校教員	・3年間の総合的な探究の時間の学びを見通す。	○		
5	探究活動のはじめに	説明	町職員	・X町が抱える課題全般についての講義を聞き、自分との関わりを確認する。 地域と課題、それぞれの定義について確認させる。		○	
5 ~ 8	探究の基礎	講義	本校職員	・探究するための技法について学習する。			
	X町の自然環境と歴史について学ぶ(※4)	講義・巡検	郷土資料館職員	・X町の歴史についての講義や、郷土資料館の見学を通して、自分の住んでいる地域の歴史について学ぶ。			○
		グループワーク	本校教員	・グループワークを通してX町の歴史から、現在のX町の課題へのつながりについて分析する。		○	
		講義・巡検	地域おこし協力隊等	・グループに分かれ、X町の自然・化石・歴史についての講義や巡検を実施し、自身が関心をもったことについて整理する。	○		
9	3年生の提言発表会見学	見学	3年生	・3年生の町への提言発表会見学し、次年度以降の自身の取組への見通しをもつ。			○
12	1年のまとめ発表会	発表会	本校教員 地域の方	・グループによるポスターセッション形式で1年間のまとめを発表する。			
2	まとめ・振り返り	グループワーク	本校教員	・1年間を振り返り、次年度へ向けての見通しをもつ。			○

整理した内容を自分の言葉で言語化できるように支援する。

1年生の段階で興味を持った探究テーマのレベルに留意するよう助言する。

課題は、現状を他と比較することで設定することができる。例えば、上記の年間指導計画における「X町の自然環境と歴史について学ぶ」場面(※4)では、過去と現状と

いう時間軸で比較することで、未来についての思考を促すことができるため、教師が意図的に働きかけ、問いが生じるように支援するよいタイミングである。また、各学年の「まとめ発表会」では、専門家の方々や、地域の方々、友人の考えと自分の考えを比較できる場を設定し、問いを深めたり、新たな問いに気付いたりできる働きかけをし、探究テーマのレベルに生徒自身が気付けるようにする機会でもある。

なお、総合的な探究の時間は、学習指導要領が定める目標を踏まえて各学校が目標や内容を設定するという特質があるが、評価の観点については、学習指導要領で整理された資質・能力に関わる「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の三観点をふまえ、設定することが求められる。

2 普通科新学科における探究的な学びについて

(1) 普通科新学科について

令和3年1月の中央教育審議会答申等において、新時代に対応した高等学校教育等の在り方について、高校生の学習意欲を喚起し、可能性及び能力を最大限に伸長するための各高等学校の特色化・魅力化や、教科等横断的な学習の推進による資質・能力の育成が提言されたことなどを踏まえ、同年3月31日に公布された学校教育法施行規則等の一部を改正する省令等により、高等学校等の特色化・魅力化に向けて、「普通教育を主とする学科」として「学際領域に関する学科」や「地域社会に関する学科」等の普通科以外の学科の設置が可能となった。

「普通教育を主とする学科」の普通科以外の各学科では、特色等に応じた学校設定教科・科目と総合的な探究の時間の相互の関連を図った指導が一層求められている。

本道においては、令和6年度、釧路湖陵高校に「学際領域に関する学科」として「文理探究科」を、大樹高校に「地域社会に関する学科」として「地域探究科」を設置した。

また、令和7年度には、岩見沢東高校及び岩見沢西高校の再編統合による岩見沢市内新設校に「学際領域に関する学科」として「文理探究科」を設置することとしている。

高等学校	新設学科	教育課程の特色
釧路湖陵	文理探究科	学際的な分野に関する学校設定科目と、「総合的な探究の時間」や各教科・科目を有機的に結び付けた探究的な学習を重視した教育活動の実施
大樹	地域探究科	地域社会の課題や魅力に着目して探究する「地域探究学習」や台湾の高雄市にある大樹区との国際交流を核とした「大樹学」、高大連携や企業連携による「大樹高STEAM」を実施
岩見沢市内新設校※	文理探究科	学際的、複合的な最先端の学問分野の知見に基づき、地域から世界の諸課題の解決に向けて段階的に学ぶ探究学習によるグローバルな視野の育成

(注) ※普通科改革支援事業の指定校は、岩見沢東高校となっている。

本手引においては、釧路湖陵高校及び大樹高校の実践例について紹介する。

(2) 単元の指導計画の作成と評価の実践例

ア 釧路湖陵高校（文理探究科）における事例

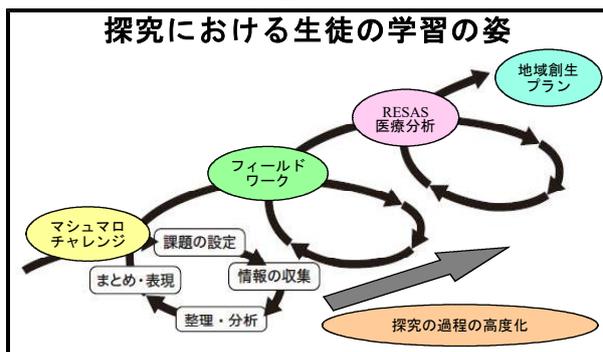
本校では、総合的な探究の時間と学校設定科目「KQ（湖陵クエスト）」を一体的

に実施している。3年間の総合的な探究の時間とKQの取組を通して身に付けさせたい力や目指すゴールを明確にすることにより、授業を担当する教員及び生徒が共通理解を図っている。

(ア) 小単元の指導と評価の計画 (21時間)

文理探究科1学年の総合的な探究の時間における、小単元「地域創生に関わるプログラム」の指導計画(年間における9～29時間目)について取り上げる。

なお、小単元の学習活動の前に1～3時間目に実施する「マシュマロチャレンジ」において、「課題の設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・表現」という探究の過程を体験学習を通して学ぶこととしている。



また、4～8時間目に実施するフィールドワークでは、日頃、生徒が生活している「学校」をフィールドとして設定し、「新しい気付き」を得る活動や、活動中に撮影する1枚の写真を共有しながら、「新しい気付き」について語る活動を実施した上で行うこととしている。

学校は意図的・計画的に体験活動を位置付けることによって、探究の過程は一層充実し、学校が総合的な探究の時間で育成を目指す資質・能力を確実に身に付けることができるように工夫している。

<文理探究科1学年 総合的な探究の時間 年間指導計画(一部抜粋)>

時間	学習項目・学習活動 (地域創生に関わるプログラム)	重点	記録	備考
9 } 12	「データ思考入門」 ・データを用いて、その読み取り方や、「因果関係と相関関係」の違いについて学ぶ。	知	○	知：ワークシート
13 14	「RESAS(地域経済分析システム) 出前講座」 ・外部講師を招いて、RESASについての理解を深める。	知	○	知：ワークシート
15 } 19	「RESAS(地域経済分析システム)を使った地域医療分析」 ・課題を設定するための基礎的な能力、探究のプロセスを遂行する能力、探究した結果をまとめ、適切に表現する力を身に付ける。	思 態	○	思：ワークシート 態：観察 次の学習指導計画を参照
20 } 29	「地域創生プラン」 ・地域創生に向けた視点で課題(探究テーマ)を設定し、動機、目的、仮説、具体的な探究方法等を明らかにして、身に付けた探究の過程を踏まえ、個人又はグループで探究を進める。	思 態	○	思：ワークシート 態：観察

多様な課題の設定方法

- 次のような方法を用いて課題を設定することが考えられる。
- ①体験活動(フィールドワーク)
 - ②資料の比較(対比する資料の提示)
 - ③シミュレーション(地域をPRするイベントに向けた取組)
 - ④グラフを読み解く(適切なグラフの提示)
 - ⑤ブレインストーミング

知：「知識・技能」 思：「思考・判断・表現」 態：「主体的に学習に取り組む態度」

次に、年間指導計画における15～19時間目の「指導と評価の計画」(太枠)を取り上げる。

生徒の課題設定において、教師が意図的に働きかけ、支援するため、次頁の「指導と評価の計画」の16時間目にあるとおり、教師が生徒にどのような問いを投げかけるとよいのかということについて例示し、学年全体で目線合わせしながら取り組むことにより、生徒が主体的に課題を設定できるよう工夫している。

< 指導と評価の計画 >

時間	ねらい・学習活動	重点	記録	備考 (評価方法)
15	①地域医療が抱える問題を考察する。 ②RESASの医療・福祉マップの医療需給における病院の推計入院者数の実表示のデータから推測されることを考察する。 ③②と同様に10万人当たり表示のデータから推測されることを考察する。	思		ワークシート①を使用 ※対象は釧路の地域医療に限定する。
16	①研究テーマになりうるものをグループで1つ考える。 ②考えられる複数の仮説を設定し、検証する。 ※意図的に生徒の発想を引き出す問いを投げかけること。 「入院する人はどういう人が多いのだろうか?」 「地域特有の特徴はあるのだろうか?」など (答えが1つとならないような問いとする。)	態		ワークシート②を使用 ※対象は全国どこの地域の地域医療でもよい。 観察による評価
17 19	○発表準備・発表 ・発表資料はプレゼンテーションソフトで作成 ・発表する際は研究テーマに対し、仮説・調査方法・結果・考察を必ず含めること ・グループごとに発表で、班員の誰もが発表できるようにすること	思 態		○発表資料による評価 観察による評価 ポートフォリオによる評価 パフォーマンス評価

指導上の留意点

【15時間目】
 ○データにおいて注目すべき箇所について説明する。
 ○生徒に対して、地域に関わる事柄から課題を見出し、広い視野に立って多角的・多面的に考察できるように支援する。

【16時間目】
 ・RESAS以外のデータも使用できることを紹介する。
 ・他地域と比較し、端的に差異が見える地域を探そう指示する。
 ・生徒同士の対話を通して、生徒が着目する点について気付かせるようにする。

知：「知識・技能」 思：「思考・判断・表現」 態：「主体的に学習に取り組む態度」

ワークシート①

RESAS 医療・福祉マップ データの比較から課題設定の基礎を学ぼう①	
1年 組 番 氏名:	
①グループワーク 10分程度 釧路の地域医療が抱える問題について、考えてみよう。	
釧路の地域医療が抱える問題	その問題は何の種類の問題? ○釧路市の問題 ○北海道の問題
例：産婦人科が少なく、分娩できる病院が少ない。	日本の地方が抱える問題 ・ 日本全国の問題 釧路市の問題 ・ 北海道の問題 日本の地方が抱える問題 ・ 日本全国の問題 釧路市の問題 ・ 北海道の問題 日本の地方が抱える問題 ・ 日本全国の問題
②個人作業 10分・グループ共有 10分 医療・福祉マップのデータから、釧路市の地域医療の特徴などを推測されることを挙げてみよう。	
データから見える特徴などから推測されること	比較・調査できるデータや統計資料
例：入院患者数が多い地域は交通事故が多いのではないか	警察庁 Web サイト

第15時においては、ブレインストーミングでテーマについて自由にアイデアを出し合いながら、生徒は新しい気付きをもって課題の設定につなげている。ブレインストーミングの実施に当たっては、「批判禁止・自由奔放・質より量・結合や改善」というルールにしたがって行うよう生徒に指導した。

ワークシート②

医療・福祉マップ データの比較から課題設定の基礎を学ぼう②			
テーマ	仮説・キーワード①	仮説・キーワード②	仮説・キーワード③
RESAS調査①	マップの有・無	RESAS調査②	マップの有・無
RESAS調査③		RESAS調査④	マップの有・無
調査結果①	調査結果②	調査結果③	
考察			

※ワークシート②は、「RESAS for Teachers」の一部を編集・加工して作成

テーマを設定した上で、生徒の自由な発想のもとで仮説やキーワードを書き出し、それらについて、RESAS等のデータ（エビデンス）を踏まえ、考察した結果をグループごとに作成する。これらの活動を通して、生徒は問題を見いだしたり、課題意識を高めたりすることができる。

(次の二次元コードからダウンロード可能)

ワークシート①



ワークシート②



「RESAS」について



(イ) 学習評価（指導と評価の一体化）について

総合的な探究の時間における生徒の学習状況の評価を適切に実施するには、信頼される評価の方法であること、多面的な評価の方法であること、学習状況の過程を評価する方法であること、の3点が重要である。

特に、生徒の成長を多面的に捉えるためには、多様な評価方法や評価者による評価を適切に組み合わせることが重要である。また、いずれの方法も、生徒が総合的な探究の時間を通して、資質・能力を育てることができているかどうかを見ること

が目的である。成果物の出来映えのみをもって総合的な探究の時間の評価とすることは適切ではなく、その成果物から、生徒がどのように探究の過程を通して学んだかを見取ることが大事である。

なお、総合的な探究の時間では、生徒に個人として育まれるよい点や進歩の状況などを積極的に評価することや、それを通して生徒自身も自分のよい点や進歩の状況に気付くようにすることも大切である。

イ 大樹高校（地域探究科）における事例

本校では、1学年の総合的な探究の時間を「キャリアデザイン」として実施している。1学年の学びにより、3年間の探究的な学びの基礎を身に付けることとしている。特に、1学年では勤労及び職業をテーマとする探究活動を行うことにより、課題発見・課題解決能力、自己発信力、キャリアプランニング能力を高めることとしている。

なお本校では、生徒がどの時期にどのような探究的な学びをするのかについて、3年間を見通した総合的な探究の時間を中心に、各教科・LHRの計画を一つにまとめて整理した単元配列表を作成することにより、生徒が見通しをもちながら取り組むことができるように工夫している。

【北海道大樹高等学校】2024「探究的な学び」指導計画 単元配列表

学年	月	日	単元・公開	教科	種別	連携科目 大樹高 Plus	キャリア デザイン	地域デザイン	育成を目指す 資質・能力	LHR	学校行事	保健・体育	音楽	美術	家庭	職業・情報
3年(通)	2-3					大学・短大 一級入試対策	連携活動体験講座		専業主婦	卒業式					卒業生講演	
	12-1		課題学習 (地域の課題)	数学	探究学習 (社会への応用)	大学・短大 一級入試対策	探究活動体験講座		探究活動体験講座	卒業式	体育大会	運動目標の 活動計画立案	芸術制作	グローバルな 課題の解決と アクション	総合的な学習 の成果発表	
	10-11					大学・短大 一級入試対策	高校生議会 再発刊作成			CST②	生徒議会 企画	合唱部に向けて			探究活動 子育支援講座 総合立学実	職業・情報・健康
	8-9		課題学習 (ペタトル)	英語	英語読解講座	英語読解講座	一般事務作成			キャリアデザイン	キャリアデザイン 発表会	合唱部に向けて			グローバルな 課題に関する ディベート	探究活動 の成果発表
	6-7					キャリアデザイン 発表会	キャリアデザイン 発表会			キャリアデザイン	キャリアデザイン 発表会	合唱部に向けて			グローバルな 課題に関する ディベート	探究活動 の成果発表
2年(通)	2-3		自己理解 (個性・強み・ 自己の課題)	英語	自己理解 (個性・強み・ 自己の課題)	自己理解 (個性・強み・ 自己の課題)	自己理解 (個性・強み・ 自己の課題)		自己理解 (個性・強み・ 自己の課題)	CST①	生徒議会				グローバルな 課題の具体化	探究活動 の成果発表
	12-1		自己理解 (個性・強み・ 自己の課題)	英語	自己理解 (個性・強み・ 自己の課題)	自己理解 (個性・強み・ 自己の課題)	自己理解 (個性・強み・ 自己の課題)		自己理解 (個性・強み・ 自己の課題)	キャリアデザイン	キャリアデザイン 発表会	合唱部に向けて			グローバルな 課題に関する ディベート	探究活動 の成果発表
	10-11		自己理解 (個性・強み・ 自己の課題)	英語	自己理解 (個性・強み・ 自己の課題)	自己理解 (個性・強み・ 自己の課題)	自己理解 (個性・強み・ 自己の課題)		自己理解 (個性・強み・ 自己の課題)	キャリアデザイン	キャリアデザイン 発表会	合唱部に向けて			グローバルな 課題に関する ディベート	探究活動 の成果発表
	8-9		自己理解 (個性・強み・ 自己の課題)	英語	自己理解 (個性・強み・ 自己の課題)	自己理解 (個性・強み・ 自己の課題)	自己理解 (個性・強み・ 自己の課題)		自己理解 (個性・強み・ 自己の課題)	キャリアデザイン	キャリアデザイン 発表会	合唱部に向けて			グローバルな 課題に関する ディベート	探究活動 の成果発表
	6-7		自己理解 (個性・強み・ 自己の課題)	英語	自己理解 (個性・強み・ 自己の課題)	自己理解 (個性・強み・ 自己の課題)	自己理解 (個性・強み・ 自己の課題)		自己理解 (個性・強み・ 自己の課題)	キャリアデザイン	キャリアデザイン 発表会	合唱部に向けて			グローバルな 課題に関する ディベート	探究活動 の成果発表
1年(通)	2-3		自己理解 (個性・強み・ 自己の課題)	英語	自己理解 (個性・強み・ 自己の課題)	自己理解 (個性・強み・ 自己の課題)	自己理解 (個性・強み・ 自己の課題)		自己理解 (個性・強み・ 自己の課題)	キャリアデザイン	キャリアデザイン 発表会	合唱部に向けて			グローバルな 課題に関する ディベート	探究活動 の成果発表
	12-1		自己理解 (個性・強み・ 自己の課題)	英語	自己理解 (個性・強み・ 自己の課題)	自己理解 (個性・強み・ 自己の課題)	自己理解 (個性・強み・ 自己の課題)		自己理解 (個性・強み・ 自己の課題)	キャリアデザイン	キャリアデザイン 発表会	合唱部に向けて			グローバルな 課題に関する ディベート	探究活動 の成果発表
	10-11		自己理解 (個性・強み・ 自己の課題)	英語	自己理解 (個性・強み・ 自己の課題)	自己理解 (個性・強み・ 自己の課題)	自己理解 (個性・強み・ 自己の課題)		自己理解 (個性・強み・ 自己の課題)	キャリアデザイン	キャリアデザイン 発表会	合唱部に向けて			グローバルな 課題に関する ディベート	探究活動 の成果発表
	8-9		自己理解 (個性・強み・ 自己の課題)	英語	自己理解 (個性・強み・ 自己の課題)	自己理解 (個性・強み・ 自己の課題)	自己理解 (個性・強み・ 自己の課題)		自己理解 (個性・強み・ 自己の課題)	キャリアデザイン	キャリアデザイン 発表会	合唱部に向けて			グローバルな 課題に関する ディベート	探究活動 の成果発表
	6-7		自己理解 (個性・強み・ 自己の課題)	英語	自己理解 (個性・強み・ 自己の課題)	自己理解 (個性・強み・ 自己の課題)	自己理解 (個性・強み・ 自己の課題)		自己理解 (個性・強み・ 自己の課題)	キャリアデザイン	キャリアデザイン 発表会	合唱部に向けて			グローバルな 課題に関する ディベート	探究活動 の成果発表

大樹高校「探究的な学び」活動計画 単元配列表

また、「キャリアデザイン」では、生徒が身に付ける資質・能力を「課題発見・課題解決能力」、「自己発信力」及び「キャリアプランニング能力」の3つで整理している。その資質・能力を生徒に配付する個人評価票に記載した上で評価し、生徒と共有することで、生徒自身の学びの自己調整を促している。

1 年 A 組 1 番 氏名

○ キャリアデザインの個人評価

課題発見・課題解決能力	自己発信力	キャリアプランニング能力	評価

○ キャリアデザインの記録

・学習活動

キャリアデザイン入門
インターンシップ・報告会
見学旅行報告会参加

大樹高校 個人評価票（一部抜粋）

Topic

総合的な探究の時間と各教科における学びの往還

総合的な探究の時間においては、複数の教科・科目等の見方・考え方を総合的・統合的に働かせることが求められている。また、社会で生きて働く資質・能力を育成するためには、教科・科目等の学習と教科・科目等横断的な学習を往還することが重要である。

次の「場面①」は、自由な発想で意見を出し合って議論することで、生徒の興味・関心に基づく課題を設定しようとしている例である。ここでは、芸術科目で「書道Ⅰ」を選択する生徒Aが生徒Bと対話しながら、書道を学ぶ過程で生じた疑問と「化学基礎」や「物理基礎」で学んだ考えを結び付けるなど、複数の教科の見方・考え方を関連付けながら探究のプロセスを展開させている場面を例として示す。

【場面①：課題の設定】

この間、書道の授業で固形の墨を擦って、薄い墨で書いたんだけど、乾いたのを見ると、1番最初に書いた線が1番上に浮き出ている、まるで最後に書いたように見えるんだ。不思議だと思わない？

化学基礎の授業で、物質の成分について学習したけれど、その内容と関係しているかもね。固形の墨と墨汁では違いがあるのかな？

比較はしていないけど、固形墨と墨汁では、成分や性質が違いそうだね。粒子の大きさだと、硯と固形墨の摩擦の関わりが関係しそう。

摩擦だったら物理の領域だね。物理からアプローチすると、筆の扱い方や筆の力点、筆先に伝える重さや力の方向などからも研究できそうだね。

そうですね！まず、「薄墨で重ねて書くと、先に書いた線が浮き出てくるのはなぜか」という問いを設定し、化学の領域から調べてみようかな。

じゃあ、まずは墨や紙に関する情報を集めてみよう。あとは、墨の性質について、先行研究で調べて発表しているものについても調べてみよう。

次の「場面②」は、場面①により設定した探究課題を解決するために必要な情報を収集し、整理・分析している例である。ここでは、先行研究を読むことで、調べて学んだことと他教科での学びを書道の学習に生かそうとする場面を例として示す。

【場面②：情報の収集、整理・分析】

○固形墨の材料
・ 煤すす（油を燃やした煤、松の枝や皮を燃やした煤）
・ 膠にかわ（獣類の骨、皮、腸などを水で煮だしたゼラチン質のもの）
○紙の種類と材料こうぞ みつまた
・ 和紙（麻、楮、三椏などの繊維、とろろあおいなどの粘液）
・ 唐紙（竹、藁、桑など）
[先行研究]
『墨色』、『硯と墨』、『墨流しの物理的研究』中谷宇吉郎 著

先行研究には、硯の種類や固形墨を擦る際に使う水の性質によっても、墨の性質が変化することが書いてあるよ。このことを検証すると、書の作品を制作する時に、求めている墨色やにじみを意図的に表現することができそう。

社会が激しく変化し、多様な課題が生じている中、各教科等の学びを基盤としつつ、教科の学習と総合的な探究の時間の学習の学びを往還しながら、課題の発見・解決や社会的な価値の創造に結び付けていく資質・能力の育成が求められている。

上記の場面①、②では、知的好奇心や探究心を引き出すとともに、学習の意義の実感による学習意欲の向上や、文理の枠を越えた複合的な課題の解決、新たな価値の創造のための資質・能力の育成などを図っている。理学、工学、芸術、人文社会科学等を横断した学際的なアプローチで問題を発見し、解決策を考えることを通じた主体的・対話的で深い学びの実現に向けて学びを往還させることが重要である。